

町小だより

令和4年
5月31日
No. 666
御免町小学校

100m

校長 相澤 祐助

私が中学校1年の時ですから、もう44年くらい前になります。その中学校は大きな学校で、一つの学年に400人ほど在籍していました。いろんな小学校から集まってくる元気のよい中学校でした。5月の保健体育、陸上競技の授業でのことです。

「今日の授業は100m走です。私の組んだこのメンバーで走ります」と担当の先生が私たちに話しました。画板にメンバー表が貼られ、みんなで確認しました。すると、「やったー、おれの組にはYがいるぜー。Yと走るなら絶対にビリにはならねー」とAさんが大声を張り上げ、意気込んでいました。Yさんは、生まれつきの病気で、右手と右足がうまく動きません。普段、歩く時も右足を引きずるように歩きます。私は、Yさんとは違う小学校でしたが、私の右の側頭部に痣(あざ)があったので、入学式後すぐに「奇妙なもの」を見るような視線を浴び続けていました。Yさんも私と同じように、何か変な視線を浴びていたことは容易に感じられました。

6人ずつの組になって100mを走ります。「相澤も一緒かあ、痣(あざ)のあるやつなんかには負けてらんねえぜ」Aさんはますますヒートアップしています。いよいよ私たちの番が来ました。「位置について」「用意」「バーン！」私は必死に走りました。Aさんには絶対負けたくないと思いながら、腕を全力で振り、足を前に前に伸ばして走りきりました。ゴールラインを超えた時、私は2位でした。振り向くと、何とYさんは4位でした。足を引きずりながらも、精一杯走ってきました。

「Yさん、速いじゃん」と声をかけました。「相澤くん、ぼくね、走るのは好きなんだ。恰好はよくないけどね」「すごいじゃん」私とYさんは、お互いを称え合いました。Aさんは、6位でした。みんなで集合場所に戻るため歩き出しました。その時です。1位だったBさんが、「おい、A! お前のさっきの話、聞いてらんねえかったわ。人を見た目で馬鹿にするもんじゃねえ。もうそんなこと絶対言うなや!」私とYさんは、目と目を合わせて「ニコッ」と笑いました。その後、Aさんは、からかいをしなくなりました。

5月21日、御免町小学校では、「町小大好きミニ運動会」が、絶好の天候コンディションの中、開催されました。順位をつけるような競う種目ではなく、親子で楽しんだり、学年単位でダンス・表現したりするプログラムでした。この町小では、Aさんのような人を馬鹿にするような子はいません。町小の子どもたちはみんな優しく、仲間を思いやる子どもたちです。当日、体調が悪くて、本部席で見守っていた同級生に声をかける6年生がいました。「どうだ、一緒に応援ダンスできるか?」「やろうよ」その子は、喜んでグラウンドに飛び込んでいきました。

町小の子どもたちは、全力で挑戦し、他を思いやる心にあふれています。来年の運動会が今からとても楽しみです。

地域・保護者の皆様からは、たくさんの御声援をいただきました。ありがとうございました。